

## 令和3年度 杉並区教育調査 まとめ

昨年末に実施しました区調査へのご協力ありがとうございました。集計結果がまとまりましたので、ご報告いたします。肯定率の数値の顕著な項目については、今年度の成果と来年度の課題と考えて大宮中学校の教育改善に活かして参ります。斜線の項目は前年度になかった質問です。  
※上段はR2、下段はR3の数値で同一学年進行です。70%以上を緑、50%未満を赤で表示しました。

No.	保護者に対する質問内容		1年	2年	3年	全校	回答不能
1	子どもの学校生活は、全体として満足できるものである。	R2	78%	81%	79%	79%	0%
		R3	79%	61%	77%	72%	2%
2	連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている。	R2	38%	54%	51%	46%	9%
		R3	27%	61%	50%	36%	14%
3	学校は、自校の教育活動に関する評価結果とそれに基づく改善策等の情報提供している。	R2	57%	59%	51%	56%	4%
		R3	41%	39%	65%	47%	9%
4	学校では、子どもが安心・安全な学校生活を送ることができる学級づくりを行っている。	R2	80%	78%	77%	79%	1%
		R3	59%	67%	89%	70%	3%
5	子どもは、学校で学ぶことにより、必要なときに、必要なことを、自ら学んで身に付けることができる力が育っている。	R2					
		R3	56%	49%	62%	55%	2%
6	学校は、子どもの学習状況を適正に評価している。	R2	78%	73%	69%	74%	3%
		R3	65%	52%	62%	59%	4%
7	学校は、ICT機器（電子黒板やデジタル教科書等）を活用した授業を行っている。	R2	40%	68%	51%	51%	18%
		R3	77%	58%	73%	69%	6%
8	子どもは、学校での生活を通して、他者と共によりよく生きるための力が育まれている。	R2	87%	89%	79%	85%	1%
		R3	65%	70%	73%	69%	2%
9	子どもは、学校での生活を通して、体力や食、生活習慣をはじめ健康な生活を送る力が育まれている。	R2	82%	84%	79%	82%	1%
		R3	74%	73%	65%	71%	3%
10	子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校は、その解決を、きめ細かに支援してくれている。	R2					
		R3	44%	27%	65%	44%	14%
11	学校は、子どもたちの発達に関する課題など、障害理解を深める情報を提供している。	R2	57%	59%	49%	55%	7%
		R3	47%	49%	46%	47%	14%
12	子どもは、特別支援学校や特別支援学級の子どもと交流したり、一緒に活動したりする機会がある。	R2					
		R3	38%	42%	58%	45%	14%
13	学校は、家庭や地域と連携・協力して教育活動を行っている。	R2	65%	76%	72%	70%	3%
		R3	65%	49%	65%	59%	4%
14	(学校独自) 学校は、様々な専門性をもつ人材が協力し、組織的に子どもの成長を支えてくれていると感じている。	R2	52%	64%	66%	60%	5%
		R3	47%	33%	63%	47%	7%
15	(学校独自) 学校は、障害など、参加に困難さを抱えている子どもたちも、みんなと一緒に活動できる配慮や工夫をしている。	R2	70%	67%	71%	69%	8%
		R3	53%	33%	71%	50%	15%
16	(学校独自) 特色ある教育活動は、学校や地域に特有の課題解決を通じ、子どもたちの成長により効果をもたらしている。	R2	52%	56%	58%	56%	7%
		R3	59%	39%	49%	49%	11%
17	(学校独自) 義務教育9年間を通じた一貫性のある教育（小中一貫教育）は、子どもたちの成長や発達による効果をもたらしている。	R2	38%	50%	32%	40%	17%
		R3	32%	36%	42%	36%	19%
18	(学校独自) いじめや不登校などに対して、未然防止、早期発見、解決に向けて、教員が協力して取り組んでいる。	R2	53%	47%	42%	49%	16%
		R3	21%	21%	63%	32%	15%
19	(学校独自) 学校での生活を通して、子どもに、地震や火災など、様々な危険を予測し、回避する力が育まれていると感じている。	R2	70%	75%	79%	75%	3%
		R3	59%	55%	58%	56%	5%

No.	児童生徒に対する質問内容		1年	2年	3年	全校	回答不能
1	先生は、クラスのみんなが分かり合い協力し合えるようにしてくれている。	R2	92%	89%	84%	89%	3%
		R3	89%	90%	82%	87%	1%
2	授業では、学習を進める方法やペースを、自分で決めながら学んでいる。	R2					
		R3	51%	53%	55%	53%	2%
3	授業では、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、個別に教えてくれている。	R2	65%	55%	63%	61%	8%
		R3	43%	56%	48%	49%	5%
4	授業では、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学んでいる。	R2					
		R3	51%	44%	50%	48%	4%
5	授業では、自分が必要なときに、必要な仲間と協力しながら学んでいる。	R2					
		R3	79%	85%	73%	80%	3%
6	学校の授業によって、分かることやできることが増えている。	R2	92%	80%	94%	89%	2%
		R3	81%	85%	82%	83%	3%
7	先生は、授業で自分ができたことを褒めてくれたり、間違えたところを教えてくれたりしている。	R2	84%	73%	84%	81%	7%
		R3	85%	76%	71%	78%	5%
8	先生は、授業において電子黒板やデジタル教科書を活用している。	R2	95%	98%	94%	96%	1%
		R3	93%	86%	84%	88%	4%
9	先生は、今の授業で学習していることが、前の授業や今後の授業とどのようにつながっているか、教えてくれている。	R2	79%	68%	63%	71%	8%
		R3	70%	80%	71%	74%	4%
10	道徳の時間では、友達や家族、地域の人たち共によりよく生きることの大切さについて、みんなで話し合っている。	R2	86%	68%	67%	75%	3%
		R3	79%	86%	68%	79%	3%
11	先生は、健康な生活を送るために必要なことを教えてくれている。	R2	86%	82%	78%	82%	4%
		R3	81%	80%	75%	79%	4%
12	地域の行事に参加している。	R2					
		R3	32%	44%	64%	46%	9%
13	先生は、地域の人たちと協力しながら、授業や学校行事をよりよくしてくれている。	R2	78%	58%	65%	68%	6%
		R3	51%	59%	64%	58%	11%
14	(学校独自) 友達や先生、家族のことなどで悩んだとき、学校に、相談できる大人(先生、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、地域の人など)がいる。	R2	78%	59%	69%	70%	7%
		R3	74%	83%	64%	74%	4%
15	(学校独自) 特別支援学級や自校外の障害のある同じ年くらいの子どもと交流する機会がある。	R2	38%	50%	67%	51%	19%
		R3	42%	59%	46%	40%	6%
16	(学校独自) 学校では、地震や火事など、様々な危険を予測し、避けるための知識や考え方について学んでいる。	R2	78%	80%	82%	80%	3%
		R3	76%	79%	73%	76%	1%
17	(学校独自) 学校行事の取り組みで、仲間との絆を深め、感動や達成感を得ることができた。	R2	70%	74%	77%	73%	1%
		R3	79%	81%	80%	80%	4%
18	(学校独自) 「自分を知る」「職業や上級学校について学ぶ」中で、自己の将来の夢や志を描くことができた。	R2	61%	58%	60%	60%	8%
		R3	47%	54%	75%	58%	9%

**【保護者】**昨年度までペーパーを使用した質問用紙の回収でした。今回から杉並区全校で、インターネットを使った回答に変更しました。その結果、期日までに55.7%（前年までは80%程度の回収率）という低い回答率となってしまいました。来年度は、保護者の回答率を上げる工夫を検討します。全般的な傾向として、昨年度から続くコロナ禍の下で学校公開が十分にできなかったことや、回答方法が変わったことも影響してか、各項目の肯定率の数値が下がっているのは残念です。No.1の「子どもの学校生活に満足」が72%という数値でありますか、決して高い数値ではありません。赤枠にあたる項目の改善を、教職員一同進めてまいります。また、保護者の回答不能の多い項目が複数ありました。学校の情報発信力を高めていきます。

**【生徒】**生徒の質問用紙は、各学級の学活の時間に、保護者同様ペーパーではなくタブレット端末を利用して回答をしてもらいました。生徒の回答は、昨年度に比べて高低まちまちでしたが、大きく下がった項目は、「授業で得意なところを伸ばし、苦手なところを少なくしたり個別指導がある」と、No.15の「特別支援学級C組と通常級の生徒との交流」の二点でした。後の項目は高い肯定率である80%以上の緑色の項目が多くを占めたことは、前向きに受け止めています。